

湊若越

～港の元気は福井の元気、地元の貨物は地元の港から～



[2018年 夏 Vol.52]

目次

- ・「みなとオアシス三国湊」登録証交付式 **P 1**
- ・日本海のみなと大発見「こども港調査隊」
- ・港湾業務艇「まつかぜ」による親子の体験航海 **P 2**
- ・平成30年度敦賀港湾事務所安全大会
- ・平成30年度敦賀港整備促進期成同盟会
- ・「平成30年度敦賀港貿易振興会」定例総会 **P 3**
- ・第23回敦賀港カッターレース
- ・シリーズみなとの祭り 三国祭 **P 4**

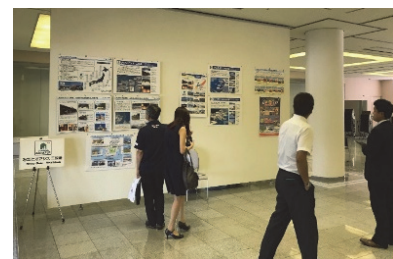
◆「みなとオアシス三国湊」登録証交付式を開催しました！



みなとオアシス三国湊構成施設。全部で13施設あります。



新規登録を祝して、笑顔で記念撮影。
(中央右)坂本市長(中央左)大和理事長
(右)佐々木次長(左)高野所長



パネル展示で「みなとオアシス」をPR！

7月13日(金)、「みなとオアシス三国湊」が新たに登録されたため、ハートピア春江で開催された「第24回北前船寄港地フォーラム in坂井市三国湊」(*)において、登録証交付式を執り行いました。

今回の登録により「みなとオアシス」は全国で114カ所目の認定、福井県内では「みなとオアシス敦賀」「みなとオアシスうみんぴあ大飯」に次いで3カ所目となります。

交付式では、港湾局長代理の北陸地方整備局 佐々木宏次長が祝辞を述べ、申請者である坂井市 坂本憲男市長に登録証が授与された後、みなとオアシス三国湊 代表施設管理運営者の三國會所 大和久米登理事長と当事務所 高野政弘所長が登壇し、来場された大勢の方とともにみなとオアシス新規登録を祝いました。みなとオアシス新規登録が、北前船の寄港地として繁栄したみなとまち「三国湊」に新たなにぎわいを創出することが期待されます。

(※) 北前船寄港地フォーラムとは、「北前船交流拡大機構」と開催自治体でつくる実行委員会が各地で開催するもの。坂井市が事務局を務めた今回のフォーラムには約400人が集結し、北前船をテーマにしたパネルディスカッションなどにより、北前船を活用した新たな観光戦略が議論されました。

○みなとオアシスとは

- ・地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、平成15年に制度を設立
- ・国土交通省港湾局長が住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設を登録するもの

○みなとオアシスの担う役割

- ・地域住民、観光客、クルーズ旅客等の交流及び休憩
- ・地域の観光及び交通に関する情報提供
- ・その他(災害時の支援、商業機能 など)

○みなとオアシスの構成施設

- ・旅客ターミナル
- ・地元産品の物販飲食店
- ・文化交流施設 など

○みなとオアシスの設置者・運営者

- ・地方公共団体(港湾管理者含む)
- ・NPO団体、協議会 など



みなとオアシス 三国湊
Minato-Oasis Mikuniminato

◆日本海のみなと大発見「こども港調査隊」が敦賀港の役割を学びました！

7月21日(土)、新日本海フェリー敦賀ターミナルで、子供たちが地元港の役割や歴史を学ぶイベントが開催されました。

「こども港調査隊」と銘打ったこのイベントは、日本財団が企画する「海と日本プロジェクト」の一環で同プロジェクトの福井県実行委員会が開催したもので、福井県内の4市町から小学5年生22人が参加しました。

丸一日かけて行われたイベントでは、午前中に、当事務所の職員が敦賀港の役割や港で働く人々について紹介した後、港湾業務艇「まつかぜ」でコンテナターミナルやガントリークレーンなど敦賀港の港湾施設を見学したほか、人道の港敦賀ムゼウムで敦賀港の歴史も学びました。午後は、赤れんが倉庫の見学をした後、新日本海フェリーの遠藤支店長からフェリーの役割を学びました。

イベントの最後には、一日を通して学んだ事を調査票にまとめて提出。今後主催者でレポート審査を行い、代表に選ばれた子供は9月に新潟市で開かれる「こども港フォーラム」に参加して発表するとのことです。

イベントが始まる前、「海は近いけど、港のことはよく知らない。この機会に港をもっと知りたい。」と話していた子供たちがどんなレポートを提出したのか？また代表に選ばれた子がどんな発表をするのか？その結果は9月のフォーラムまでわかりませんが、楽しみにその時を待ちたいと思います。



敦賀港の役割を学ぶ子供たち



フェリーの係船ロープで綱引きする一幕も。



まつかぜ船内の様子。



福井TVで放送されます！



みんなで記念撮影！

◆港湾業務艇「まつかぜ」による親子の体験航海

5月13日(日)、敦賀港のきらめきみなと館とその周辺において、「第36回親子のフェスティバル」が開催されました。

このイベントは「親と子・仲間・地域・自然とのふれあい等を通じて青少年の健全育成を図ること」、「子ども達の全力の笑顔を見ること」などを目的に青少年育成敦賀市民会議が主催したもので、当事務所からも、港湾業務艇「まつかぜ」による親子の体験航海を実施しました。(今年で8回目の参加協力。事前予約制とし、親子100名を募集)

当日はあいにくの雨模様で、一時土砂降りとなるなど開催が危ぶまれましたが、幸い波・風ともに穏やかだったため、予定どおり午前10時から午後3時までの計5回「まつかぜ」を運航することが出来ました。

船内では、敦賀港を利用する貨物や船の種類、港の役割などを説明しながら、日頃見る事のできない海からの眺めを楽しんでもらいました。乗船した親子からは「まつかぜ」の普段の仕事についての質問や、「ちょっとしたクルーズ気分でした楽しかった」、「天気の良い日にまた乗りたい！」など嬉しい声も聞く事が出来ました。

フェスティバルでは、海上自衛隊の掃海艇と海上保安庁の巡視艇が一般公開されたほか、今年開催される「福井しあわせ元気国体」のPRブース設置など様々なイベントが行われ、多くの親子で賑わいを見せていました。

敦賀港湾事務所では引き続き、体験航海等を通じて港の役割・港湾整備への理解を深めてもらえるよう、地域のイベントに積極的に参加して参ります。



「行ってきまーす♪」



魚がいなくて興味津々

◆平成30年度敦賀港湾事務所安全大会を開催しました

6月28日(木)、敦賀地方合同庁舎において、「敦賀港湾事務所安全大会」を開催しました。これは、港湾工事の繁忙期を前に発注者、受注者及び港湾工事関係者が一堂に会し、安全確保の取組強化や意思統一、及び安全意識の高揚を図る目的で開催しました。

多数の港湾工事関係者が参加する中、当所高野所長の挨拶の後、敦賀労働基準監督署八田安全衛生課長より安全講話、港湾空港部丸山工事安全推進官より港湾工事安全対策の報告を行い、最後に工事請負者代表による「安全宣言」により労働災害防止の決意を共有し、大会は終了しました。

また、これに先立ち、国際物流ターミナル整備事業の工事現場において、事務所主催の安全パトロールを実施し、足場からの転落事故防止や熱中症対策など、安全に留意して作業が行われているか点検・確認を行いました。

パトロールの講評では、好事例の紹介や改善すべき点の指摘など熱い議論を交わしました。当事務所発注の工事では、現在約4600日の無事故記録が継続しています。

引き続き、無事故で工事が終わるよう安全確保に取り組んで参ります。



安全パトロールで事故を未然に防ぎます。



安全大会の様子



ケーソン製作は順調。9月上旬の進水を目指し、安全作業を徹底します。

◆「平成30年度敦賀港整備促進期成同盟会」が開催されました

5月24日(木)、敦賀港の備促進と利用拡大を図る「平成30年度敦賀港整備促進期成同盟会」の総会が敦賀市役所で開催されました。

初めに、副会長の洲上隆信敦賀市長が「敦賀港の鞠山南国際物流ターミナル拡張事業着工式典も3月に実施し、本格的に工事が始まった。国、県、関係者に感謝。」と挨拶された後、平成29年度の事業報告、平成30年度の事業計画が審議され承認されました。

総会に引き続き、平成30年度敦賀港事業計画説明会が行われ、当事務所の高野所長、福井県嶺南振興局敦賀港湾事務所高野所長が今年度の事業について説明しました。



事業概要を説明する
高野敦賀港湾事務所長



嶺南振興局
高野敦賀港湾事務所長

◆「平成30年度 敦賀みなと振興会」定例総会が開催されました

5月24日(木)、敦賀港の賑わい創出や交流人口の拡大、地域振興を目的に設立された「敦賀みなと振興会」の総会が敦賀市役所で開催されました。

総会では洲上市長の挨拶に続き、「クルーズ客船の歓送迎イベント事業」、「ポートセールス事業」などの事業計画が承認されました。質疑応答では、会員の方から「予算の利用状況」、「ノベルティグッズ」を配布したいがどうすればよいか等の質問がありました。



定例総会の様子



敦賀市長(会長)の挨拶

◆「第23回敦賀港カッターレース」に参加しました！

7月15日(日)、敦賀港川崎松栄地区において、「第23回敦賀港カッターレース」が開催されました。このイベントは、敦賀の夏の風物詩として港の活性化などを目的に毎年開催されているものです。

今年は先週の豪雨の影響により、カッターが破損するなど一時開催が危ぶまれましたが、実行委員会の懸命な修復活動もあり無事に開催され、地元企業などを中心に35チームが出場しました。

当日は気温が35℃を上回る猛暑の中、スタッフや応援に駆けつけた観客などを含めた総勢約800名が、敦賀の夏の風物詩を満喫していました。

当事務所にとりましても、「ダイイチブルーピーター」として毎年出場しており、今大会で記念すべき15回目の出場を果たしました。豪雨により事前練習が中止になるなど、ぶっつけ本番のレースとなりましたが、熟練の伊藤・杉浦両副所長をはじめとした精鋭8名で声を掛け合い、カー杯オールを漕ぎ、予選2回とも無事にゴールする事ができました。目標としていた決勝進出とはなりませんでしたが、メンバー全員で漕ぎきったという達成感と心地よい疲労感とともに、楽しく充実した一日となりました。

敦賀港カッターレースとは・・・

日本海少年団連盟所定の6mカッター（木製の短艇）を用い、1チーム8人（艇長・艇指揮・漕ぎ手6名）で往復400mのタイムを競う。全チームが2回の予選を行い、上位4チームが決勝に進出し、優勝を争う。



いつになく真剣な表情のスタート前



メンバー集合写真（福井新聞によるうちわ作成）

祭 シリーズみなとの祭り2 福井港（三国港地区） 三国祭 祭

本シリーズの第2弾は、福井港（三国港地区）、武者人形山車が迫る熱気溢れる「三国祭」の紹介です。

祭りの舞台は、続日本紀（8世紀）にも登場する三国湊（現在は福井港（三国港地区））です。三国湊は江戸時代以降北前船寄港地として繁栄。明治三大築港として和蘭人技師エッセル（計画設計）デ・レーケ（工事）が関わった本邦初の西洋技術による捨石式防波堤（現「エッセル堤」）が今でも越前ガニ漁で賑わう港を支えています。港は福井港（本港地区）が中心ですが三国湊の町衆が熱い心意気で望む祭は古くから三国神社例祭として続く歴史ある祭りです。

祭りのハイライトはなんと言っても山車巡行。北陸三大祭りの一つで県無形文化財でもあり、北前船交易で栄えた当時の面影を残す路地ギリギリを、巨大な武者人形山車が威風堂々と目の前を通過する様子は迫力満点です。太鼓や三味線、囃子方の子供らの元気な掛け声で盛り上げ、20万もの人出を魅了します。

今年は好天に恵まれ、広小路通りの露天や「我が家のお宝展」を見せる町屋に多くの人々が訪れ、お囃子が響き往時の三国湊の賑わいに思いを馳せつつ雰囲気を楽しんでいました。

福井港（本港地区）は地域の経済と産業を支える工業港ですが、今後はクルーズ客船の寄港も期待されます。全国114番目の登録「みなとオアシス三国湊」構成施設と共に魅力溢れる三国祭は誘致のキラーコンテンツとして大いに期待できるものと、その思いを強くしました。



←山車出発前の
記念写真
手前が囃子方、外国人も参加



三国神社前に山車勢揃い
凄い人出



威風堂々山車巡行
電線が気になります！

☆メモ☆ 三国湊の面影が残るまち並みにはカグラ建と呼ばれる様式の家が見られ格別の趣
北陸自動車道加賀・金津・丸岡各ICより車で30-40分 えちぜん鉄道三国駅利用が便利

From
Editors

●発行
国土交通省 北陸地方整備局 敦賀港湾事務所

所長・副所長(事務)・副所長(技術)・総務課・品質管理課
工務課・企画調整課・保全課・建設管理官室・沿岸防災対策室
〒914-0065 福井県敦賀市松栄町7番28号
敦賀地方合同庁舎3階

TEL:0770-22-2590 FAX:0770-21-8101

※当事務所の福井港分室は、福井港海岸直轄海岸保全施設
整備事業の完了に伴い、平成30年3月末日をもって閉庁い
たしました。

敦賀港湾事務所HP

<http://www.tsuruga.pa.hrr.mlit.go.jp/>

北陸地方整備局 港湾空港部HP

<http://www.pa.hrr.mlit.go.jp/>

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル
大いに 良くなれ みなと

0120-497-370

※海やみなとに関するご意見、ご感想をお寄せください。